

資産運用レポート：天井圏の株価と 200 日移動平均線

1. はじめに

下図は、日経平均が大天井をつけた 1989 年から 1990 年にかけての株価チャートです。

1990 年に入り、上値の重くなってきた日経平均は、200 日移動平均線を下に抜けると一気に急落。いったん戻したものの、その後は一度も 200 日移動平均線を上回ることもなく、2 万円まで下げています。

この局面にて、200 日移動平均線を「最後の砦」として見ていた投資家は、それなりに利食えて、かつ投資資金を温存できました。

200 日移動平均線は、株価の長期トレンドを示しています。よって、天井圏において、株価が 200 日移動平均線を割り込んだり、200 日移動平均線自体が横向きに転じることは、重要な変化を表します。

今回の資産運用レポートでは、私自身の投資体験も交えながら、天井圏の株価と 200 日移動平均線の関係を取り上げます。

★日経平均株価（1989～1990年）

